

腹部外傷について

外科 的野る美

外傷の初期診療1

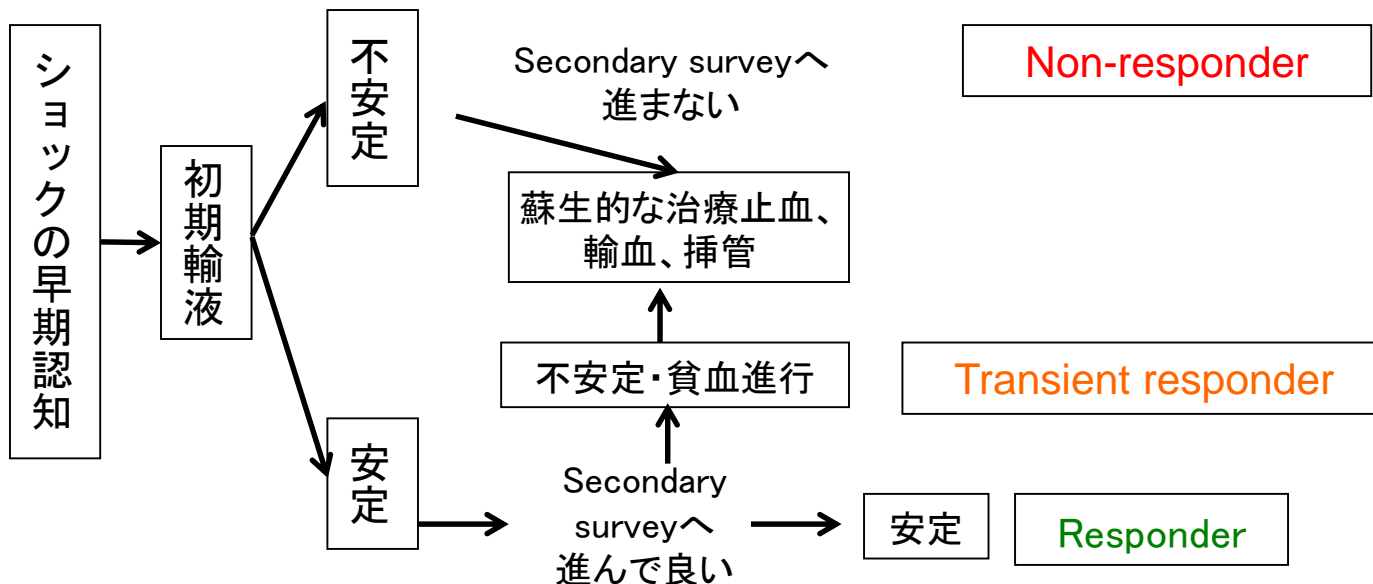
1. 最初に生理学的兆候を主眼に、迅速かつ的確に患者の生命危機を把握する (primary survey)

①生命に関わることを最優先する。②最初に生理学的兆候の異常を把握する。

③確定診断に固執しない。④時間を重視する⑤不必要な侵襲を与えない。

→「重症度」よりも「緊急度」

2. 適切な救急処置で生命危機を回避する(蘇生・ABCDE)



高エネルギー事故の例

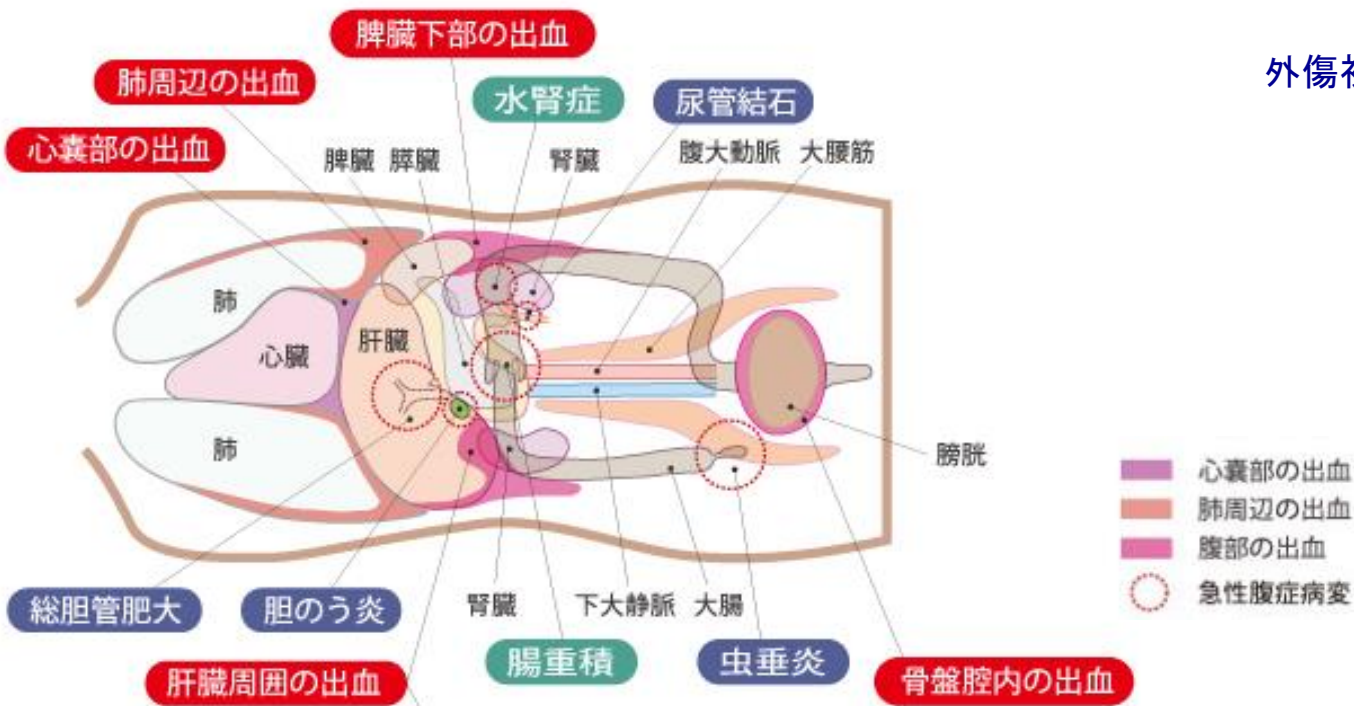
- ・高所転落、・自動車事故(同乗者が死亡、車から放り出される、車が高度に損傷)
- ・歩行者・自転車vs車、車にひかれる、・バイク事故(バイクと人との距離が近いと危険度大)
- ・機械器具に巻き込まれる、体幹部が挟まれる、など。

外傷の初期診療

3. 生命の安全を確保した上で、全身を系統的に検索し、損傷を見つける
(secondary survey)
 - FAST(素早く、**何度でも**！ 継時的に変化する可能性あり！)
 - 陰性でも、陽性でも待機できるなら、画像検査へ→**造影CT**を！！
4. 自己及び自施設の診療能力の限界を超えていると判断すれば、応援医師の要請や転院を図る
 - 自分一人で抱え込まないこと！
5. 根本治療や経過観察を行う過程で、損傷の見落としががないか繰り返し観察する
(tertiary survey)
6. **外傷診療**は多職種の医療従事者による**チーム医療**である

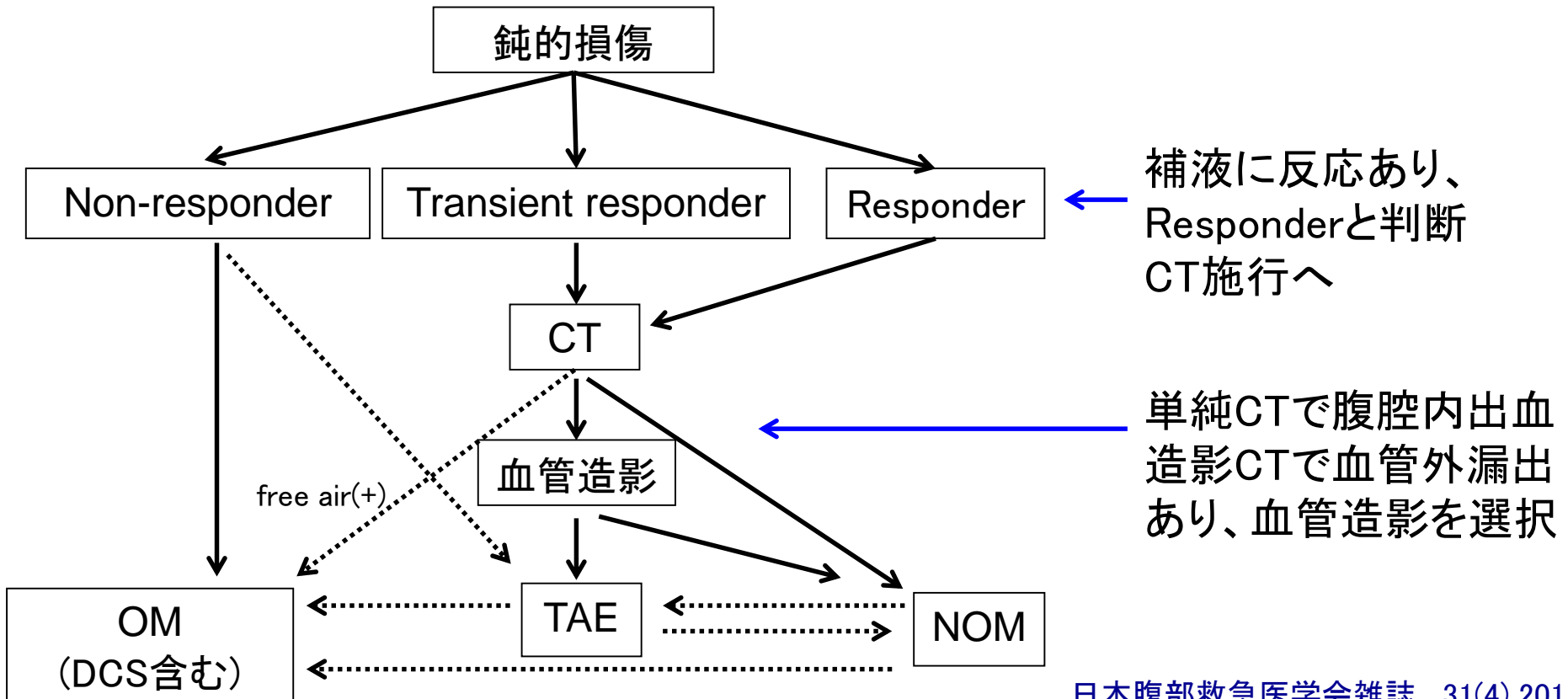
腹部外傷

- ・鈍的外傷が88%を占め、受傷起点では交通事故、墜落などが多い。
最近ではDVの被害も侮れない。
穿通性外傷は約3%と少なく、刺創が多く、銃創はまれ。
- ・腹部外傷は血液の豊富な実質臓器と消化液などを含む管腔臓器の損傷があり、
出血によるショックや腹腔内汚染による腹膜炎が生じる。
→継時的に変化するため、治療の時期を見逃さないようにする必要あり。

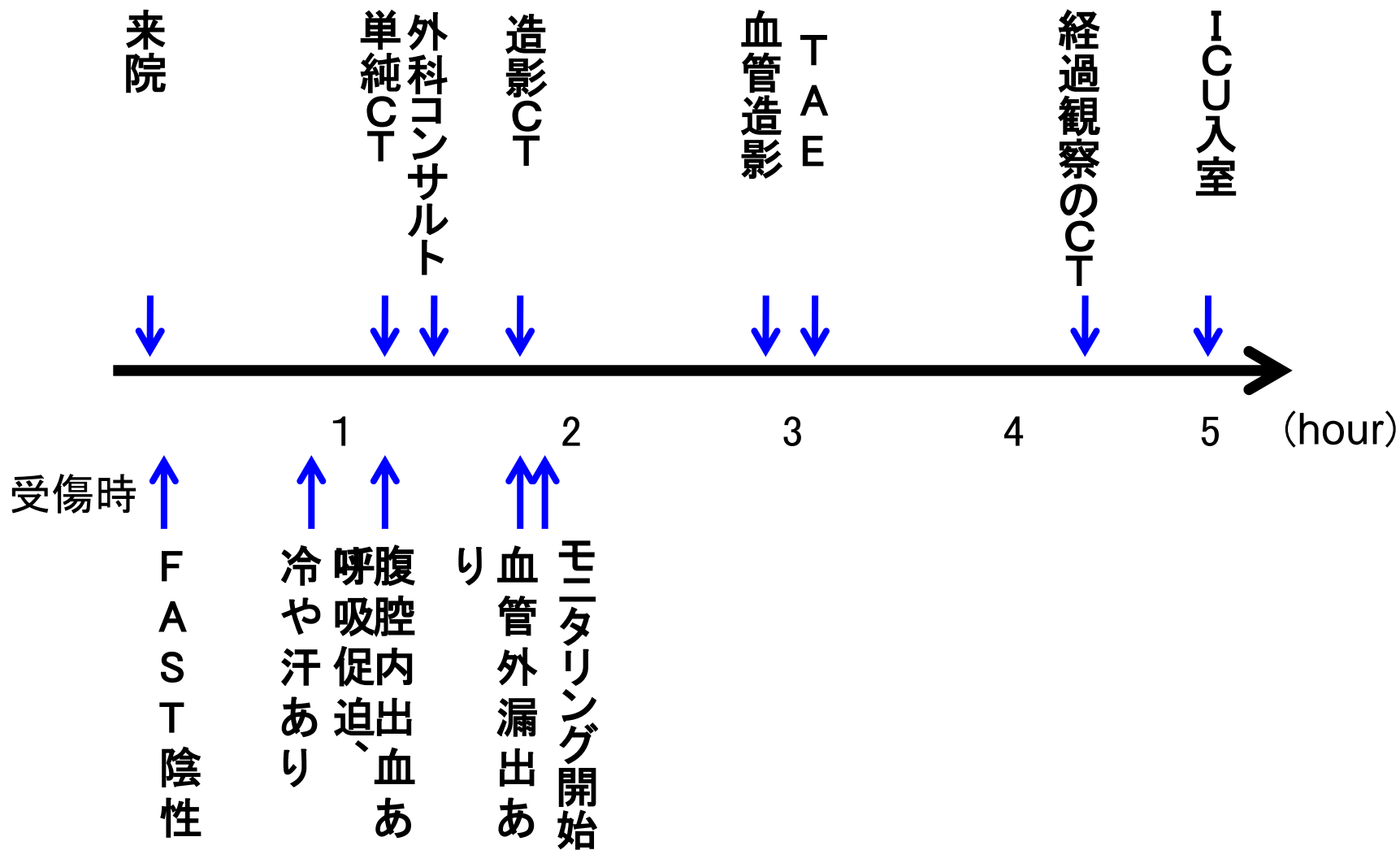


外傷初期診療ガイドライン, 第5版

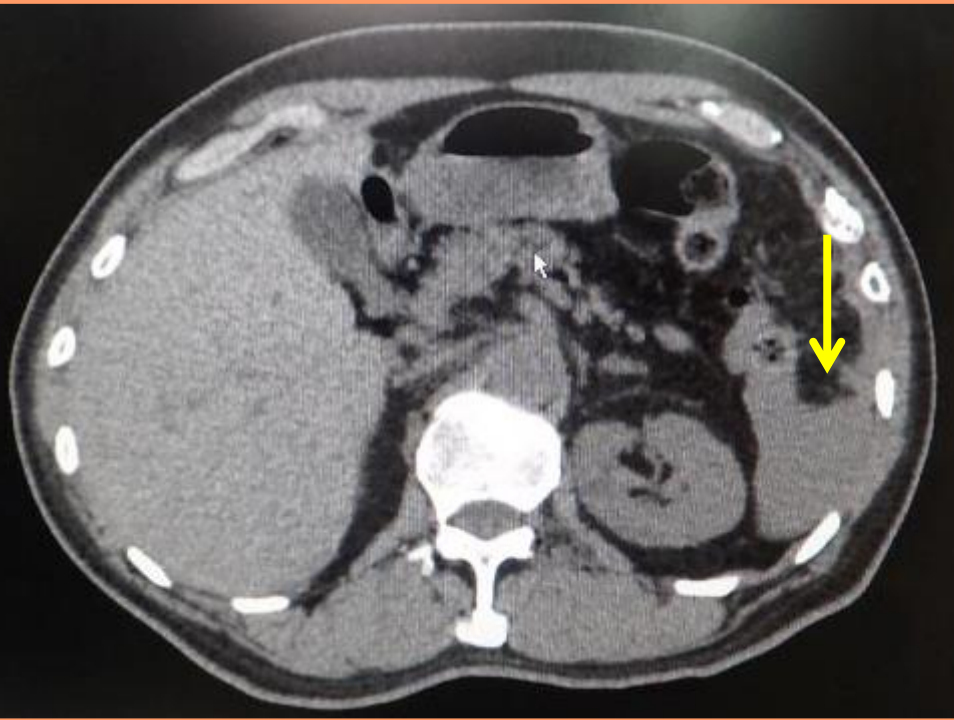
振り返り(治療方針)



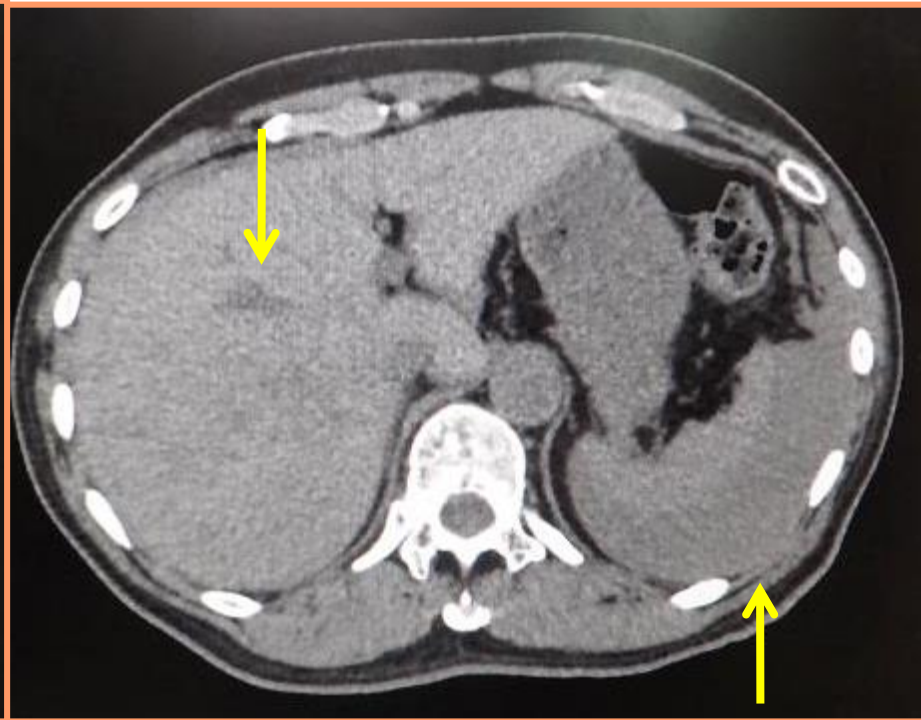
振り返り(治療経過)



画像所見(単純CT)



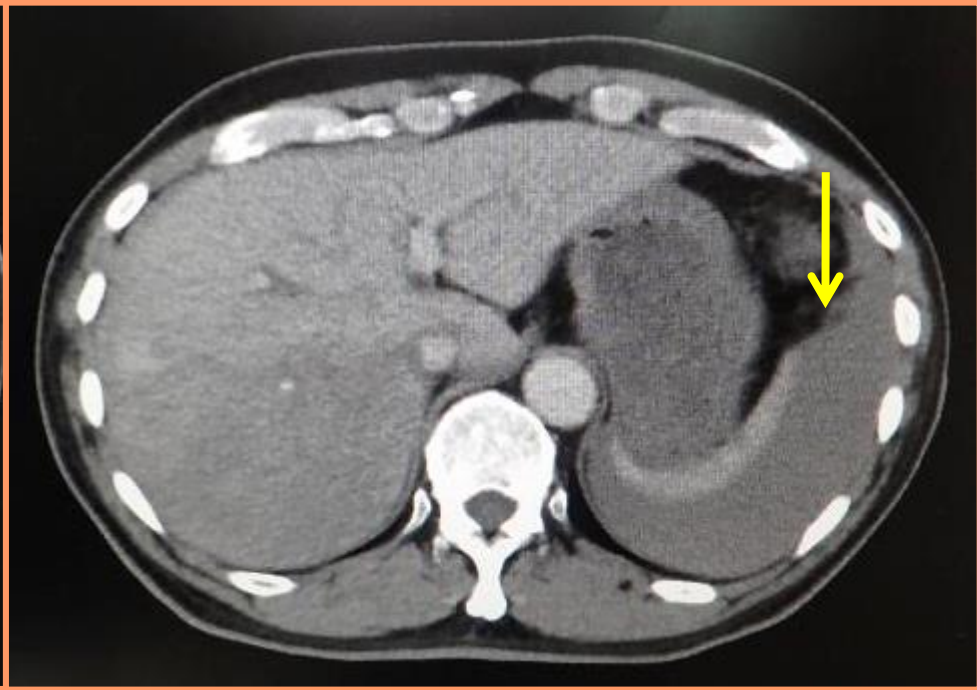
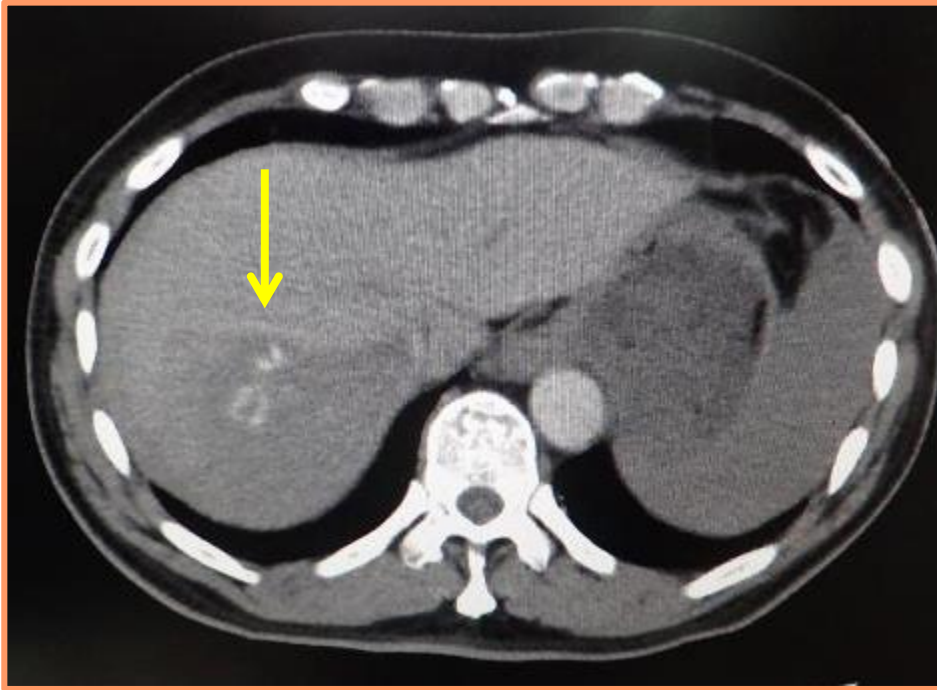
↑ 腹腔内に高吸収な液体貯留あり。



↑ 腹腔内出血を疑う所見。
肝臓にも低吸収域あり。
肝臓由来の出血??

腹腔内出血あり、造影CTとらなくては！！

画像所見(造影CT)

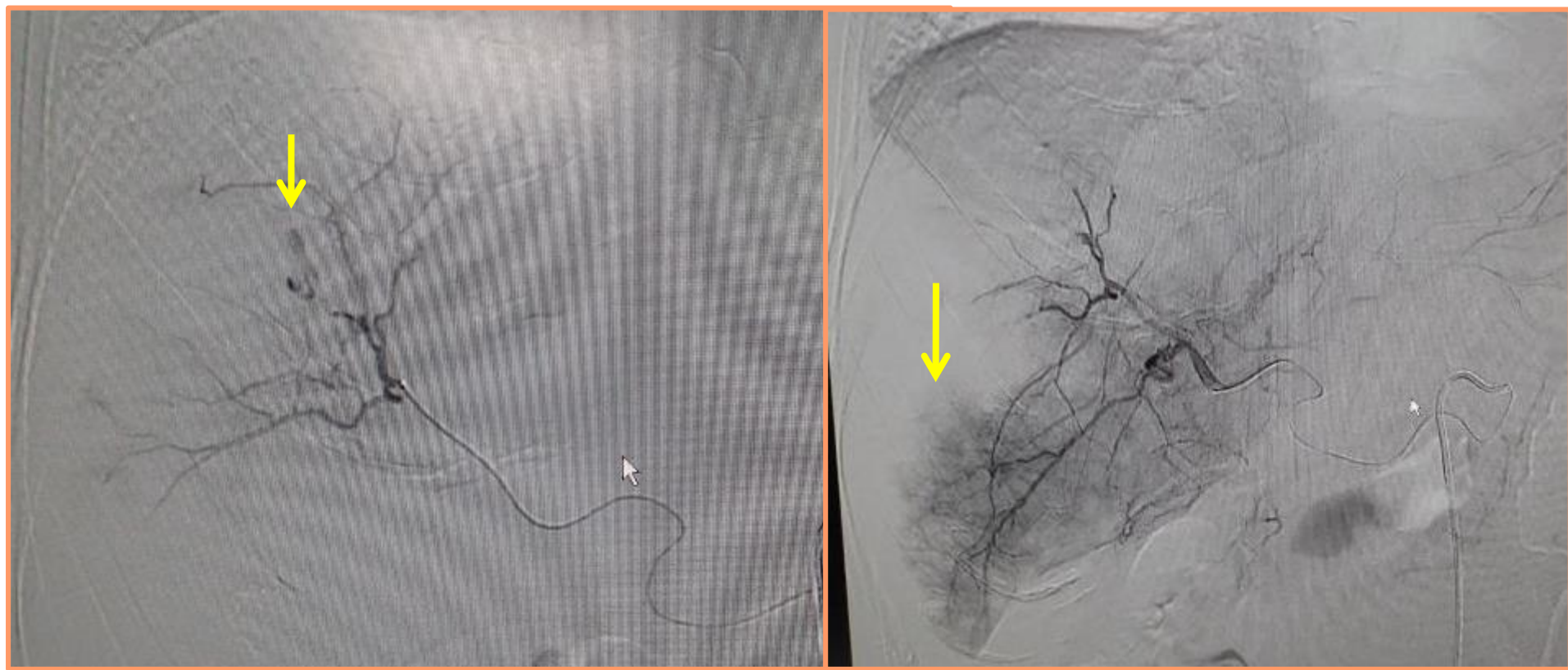


↑ 肝損傷あり、血管外に造影剤漏出。
腹腔内液貯留増加。

↑ 脾臓周囲の出血も増加。

出血増加、早く止めなくちゃ！！

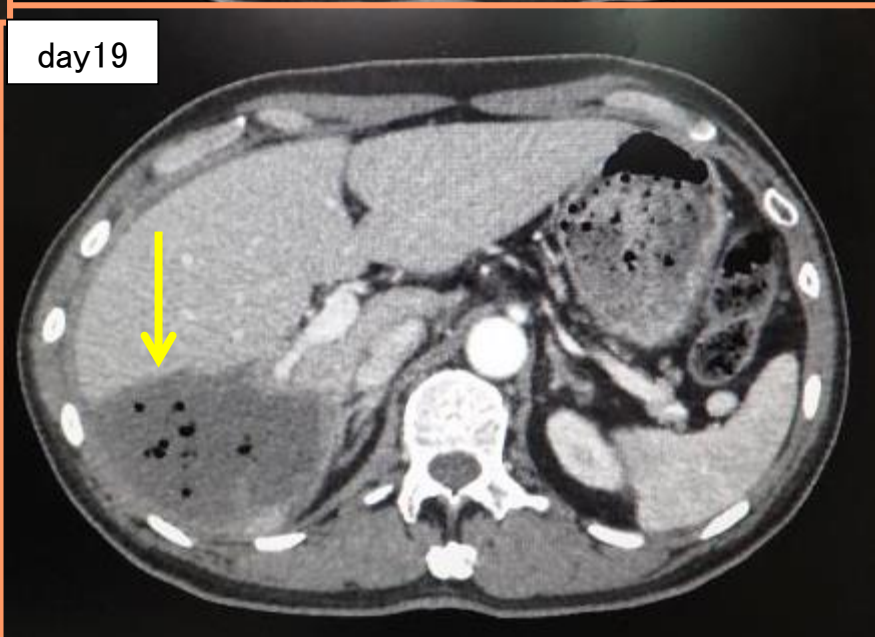
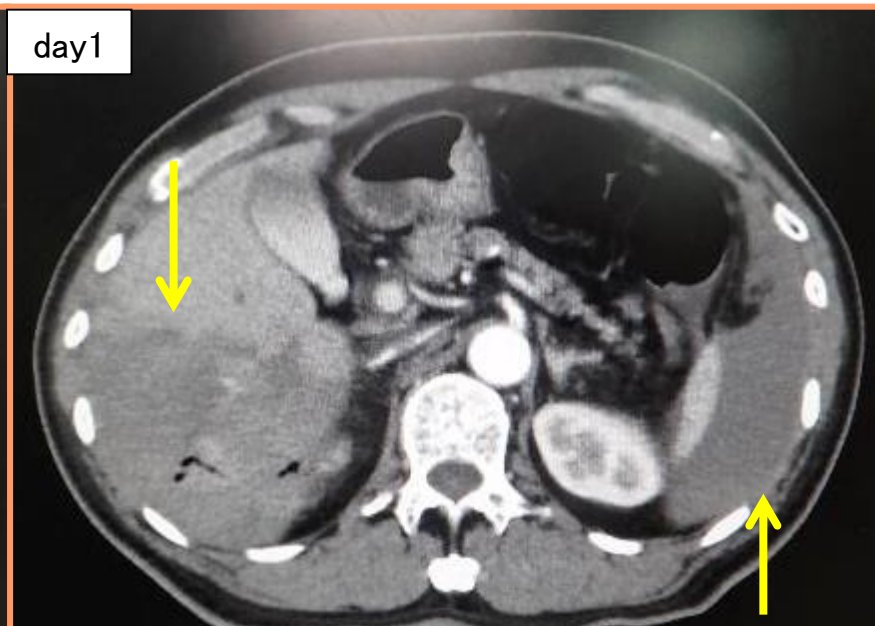
画像所見(血管造影)



肝動脈造影では造影剤の漏出あり。
血管塞栓を行うことに・・・

ひとまず止血できたよう。

画像所見(受傷後経過)



day1 : 出血はなし。腹腔内出血も減少。

day19 : 血腫は減少。

肝の損傷部位に胆汁漏。

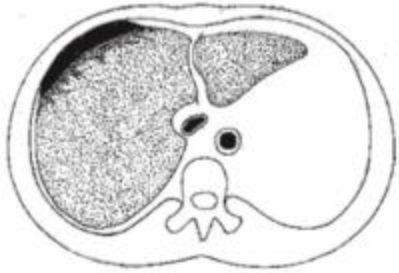
day27 : 肝後区域切除術施行。

外傷は継時的に見ておかないと、
後から出てくる所見もある！

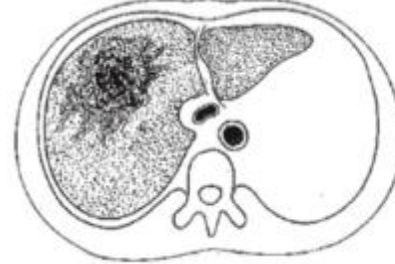
肝損傷(日本外傷学会分類2008)

I 型 被膜下損傷

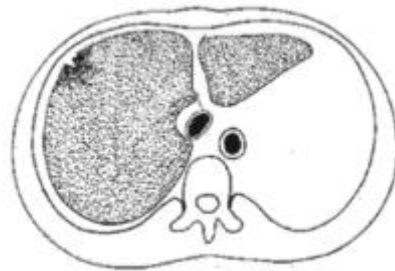
a. 被膜下血腫



b. 實質内血腫

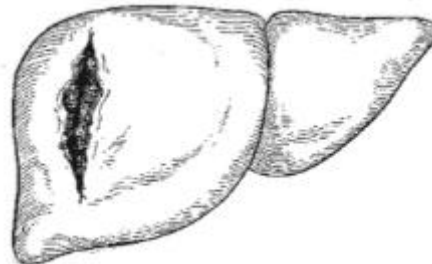
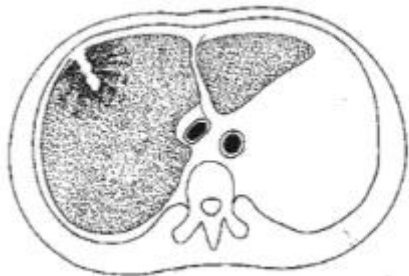


II 型 表在性損傷

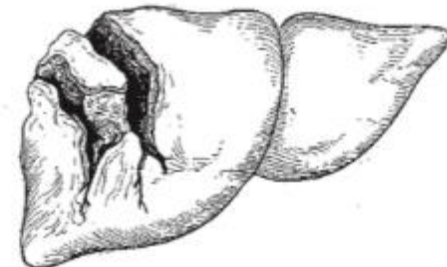
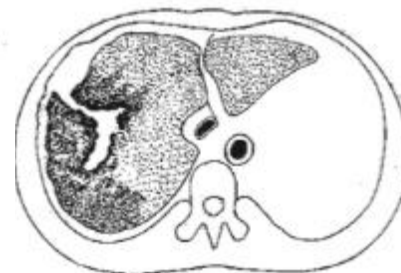


III 型 深在性損傷

a. 單純深在性損傷



b. 複雜深在性損傷



今回の症例の考察1

- 初期診断は適切であったか？
初回の時点で**高エネルギー外傷**の認識が薄い。
- 検査のタイミングは適切であったか？
何を疑うか。単純CTでも出血はわかる。
ただし、造影剤の漏出、その程度の評価、腸管損傷の有無の評価は造影CTでないとは十分に行えない。
放射線科の先生の読影を待つ前に
自分でもちゃんと見ること！

今回の症例の考察2

- Non-operative management (NOM) の選択は適切か？
すぐに手術をするべき症例、待機できる症例を選ぶには経過観察を続け、変化を見逃さないこと。
- どの臓器の損傷か、で重症度も変わる。
後から起こる合併症にも注意必要。

今回：

外傷→CT→TAE→遅発性胆汁漏→最終的に手術
1ヶ月で・・・〇〇万！！

みなさんへ

- * 交通外傷は侮らない！ 救急外来では時間を大事に。
- * 一度診させていただいた患者さんのその後も、確認してみてください。